

今号では、2018 年度サッカー1 級認定審査受験者の紹介とレフリーアカデミー全国研修会報告、5 月に行われた 2 級強化指定研修会報告をお届けしていきます。

【1】2018 年度サッカー1 級認定審査受験者の紹介(50 音順)

●工藤圭祐 審判員(所属:宗谷地区)



今年サッカー1 級審判員昇級試験を受けさせていただくことになりました宗谷地区所属の工藤です。

今年の冬に体力テストを受けて、合格することができ、ようやくスタートラインに立つことができました。

選手のために一生懸命頑張り、自分の課題を克服できるように準備をして、ストロングポイントを試合で出せるように頑張りたいと思います。

アドバイスくださった審判員、インストラクターの方々、大会運営に携わるの方々、サッカー関係者の方々にも感謝の気持ちを忘れずに、「1 級審判になりたい」ではなく「1 級に絶対になる」という意識をもって臨みたいと思います

●中村一貴 審判員(所属:札幌地区)



この度、1 級審判員認定審査を受験させて頂くことになりました。日頃から支えてくださっている全ての方々には大変感謝しております。

私は何よりサッカーが大好きで、6 年間続けてきた審判活動では、常に「選手にとって悔いの残らない試合になるように」と思い、日々トレーニングを重ね、試合経験を積み、判定力を高める努力をしてきました。今後も選手の為に一生懸命頑張ります。

● 秦洋輔 審判員(所属:十勝協会)



2018年度1級審判員候補に選出して頂きました、十勝地区協会所属の秦洋輔です。これまで多くの方々からご指導頂き、様々な経験をすることができました。感謝と謙虚な気持ちを持って、1つ1つ一生懸命に取り組んでいきます。また、「選手のために!」の精神を大切にしながら、審判員としての結果もついてくると考えています。良い準備をし、最大限のパフォーマンスをしていきます。

【2】全国研修会報告

研修会名 :2018年度第1回 JFA レフェリーアカデミー集中研修会

参加審判員:堀 悠雅(北海道アカデミー・札幌地区)

1. 研修目的

前年の集合講習会や各種大会、及び地域レフリーアカデミー(以下、RA)での活動を総合的に判断してRA生を選抜し、審判技術の向上や人間的な成長を目指した研修を行う。「第10回大学サッカーフェスティバル島原」に参加し、審判実技とレフェリング分析を主に実施し、将来的なファーストトラックを視野に入れるとともに、その後の各地域RA活動への情報共有の場とする。

2. 参加しての振り返り

ポジショニングは全体を通してよかった点である。昨年のIリーグからの経験やこれまでご指導いただいたことを整理でき、またフィジカルについても継続できていることも大きな要因である。特に戦術的には前線から激しいプレスをかけ、そのままボールを奪い攻撃につなげるというチームが多かった。これを分析し、主審としてポジションを先取りするときやそうでない時の状況を整理できたこともよかった点である。しかし、まだチームとしてプレスをかけ始めているのか、個人でプレスをかけ始めているのかという事が読めていないためにポジションが先取りしすぎてしまっている事があったため、チームとしてのプレスのかけ始めを見極め距離感を修正して行く事が必要であった。このことは2試合目に気づく事ができたので、3試合目では適切な距離感を保つ事ができたと思う。北海道の試合でもこのように戦術を意識したポジションを取れるよう継続して行きたい。

一方で判定基準にはまだまだばらつきがあり一貫していなかったと言える。日本の強豪校と言える大学であるためか、接触があっても全然気にしない選手、倒れたとしてもすぐに立ち上がりプレーを継続する選手が多くタフなプレーが非常にあった。ホールディングについてはタフさなどため、概ね正しい判定を下す事ができたが、それ以外の接触についてはより見極めやボールへの優先権や争点付近の状況を把握することを意識していきたい。





【3】2級強化指定研修会報告

5/19～20の2日間で開催された強化指定研修会。今回は総理大臣杯を研修試合として、札幌・岩見沢・旭川の3会場で開催しました。参加した、佐川晃大審判員からのレポートをご紹介します。

今年度2回目の強化指定審判員研修会に参加させて頂きました。

私個人としては研修会において、初めて総理大臣杯のレフェリーを担当させて頂きました。

担当させて頂いた試合の私の目標は、日々のトレーニングから切磋琢磨し合ってきた両チームの選手たちにストレスがないレフェリングをし、90分の中で選手との信頼関係を創り上げることでした。

判定に説得力をうむために、近い距離で事象を見られるよう豊富な運動量で良いポジションをとることに努め、試合全体を通して毅然とした態度で振る舞うよう意識した結果、前述した目標はクリアできたと振り返ります。

ただまだまだ反省点は多く、一番の課題は先を見据えたポジションをとること。

この課題を今後突き詰めて参りたいと思います。

非常に良い経験をさせて頂いたこと、感謝申し上げるとともに、担当させて頂いた試合の両チームの健闘を心より讃えさせて頂きます。

